

～コンコード交流に参加して～

引率職員（団長） 経済部都市住宅課長 ごろう 伍楼 つかさ 司

10月3日から14日までの12日間の日程で行われた「七飯町海外交流研修」に参加しました。

今年はコンコードとの姉妹都市を始めてから記念となる20周年の年であり、私たちがコンコードを訪問した後、コンコードの町民が姉妹都市再調印式に参加するため来町するという年でもありました。

コンコードへは中学生5名、高校生3名、町民代表3名、引率教員2名の総勢14名体制での訪問となりました。

今回、町の代表としての立場もあり、参加する中高生が今後の人生にとって貴重な経験となることを期待するとともに、参加者全員が無事に研修を終了することができるか心配なところもありましたが、空港で皆さんの元気な姿を見ることができ、まずは安心して出発となりました。

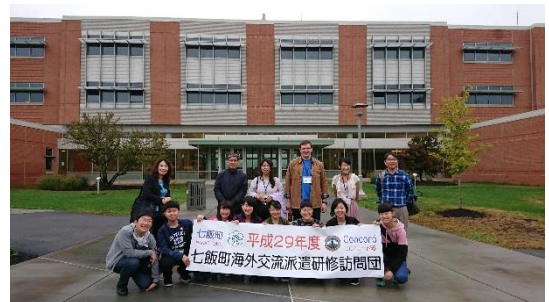
函館空港から羽田、成田を経由して夕方18時にボストンローガン空港に到着しました。成田からのフライト時間は約12時間で非常に長い時間に感じられましたが、到着前の最後の食事が吉野家の牛丼で、これが日本に帰るまで最後の日本食になるのかと感慨深い思いの中、おいしくいただきました。

ボストン空港では、事前研修の成果なのか難関と思われた入国審査をそれぞれスムーズに終わることができました。空港では、スーザンさんほかCCNNの皆さんが温かく迎えてくださり、やっと着いた疲労感がありましたが、これからの交流を改めて有意義なものにしなければとの思いが強くなりました。

空港からは、カーライル高校のスクールバスで移動しました。丁度ボストンでは、レッドソックスが地区優勝を果たしワールドシリーズに進出するため戦っていましたが、残念ながら敗退したようでした。しかし、地元の熱は大変なものであり、CCNNの共同代表のジョンさんも生粋のレッドソックスファンのように、お気に入りのレッドソックスの帽子をいつもかぶっており、七飯町を訪問した際も、変わらずお気に入りの帽子をかぶっていました。

コンコードの町は、自然豊かで大沼のようなところと聞いておりましたが、実際そのような印象の受ける所でした。

街なかには整然としており綺麗な街並みになっており、建物も古いものを大事に活用している印象で、緑も多く色彩もケバケバしくなく、落ち着いており、広告看板も少なく、また、道端にはゴミは一切なく、環境意識の高さを感じました。



コンコード・カーライル高校前で

ある意味無駄なモノはなく、これだけあれば、十分生活できる。日本では、利便性、機能性が優先される傾向があるが、便利さが全てではないと思われ、心が落ち着きます。

電柱は木柱で信号も少なく、横断歩道では歩行者がいれば車は止まることになっているようで歩行者保護が徹底されていましたが、ある意味これが当然なことなのだと感じました。



コンコードの町並み

住んでいる方は町への愛着がすごくあり、パーティーでお会いした高齢のご婦人は、「今この町では、森林を伐採して土地造成をしているところがあり、困っている」との話をされており、自然を破壊してまでの開発は良くは思っていないようでした。他の方にも聞いたところ、コンコードでも高齢化が進んでいるが、コンコードへの居住希望者は多く、ここに住むことがステータスになっているために地価が上がっており、若い方の居住はなかなか進んでいないようです。

実際、地元のタブロイド版の新聞には、日本円で億の金額の不動産販売広告が幾つも掲載されており、普通に買う方がいるんだろうかと感じたところでした。

今年のコンコードは非常に暖かく、10月の始めだというに皆さん半そでで過ごしており、我々訪問団は寒さ対策のため防寒仕様で行動していたため、終始暑さとコミュニケーションでの冷や汗で汗だくの毎日でした。

今回のホストファミリーのマーク・ハウエルさんはコンコード町の職員で、奥さんのパムさんは教会の仕事をしており、愛犬とともにお迎えしていただきました。

ハウエルさん夫妻の息子さんのクリスさんは以前に国際交流員として七飯町にいた方で、ハウエルさん夫妻

も七飯町を訪問されたこともあり町のことを良く知っていて、11月3日に再度七飯町を訪問することにもなっており、いい交流ができました。

この愛犬スコートは1歳の女の子で、時間の空いた際には私の遊び相手でした。ハウエルさんに日本食を食べてもらうために持って行った「いかめし」を食べられてしまい焦りましたが、今ではいい思い出です。



ホストファミリーと

私は、この研修で、町の土地利用を教えてくださいました。

まずコンコードの農業は、酪農と畑作があり、農産物の出荷は、主に直売、契約販売、学校給食、低所得者へ供給するフードパントリー、レストラン直売で、ほぼ地元で消費するようです。農地は、農地として守るために町が買い取り低所得者に貸し出しすることもあるとのこと。現在、農地1400エーカーの内400エーカー(約162ha)を町が所有しており、購入の決定は、タウンミーティングが行います。日本では、農地は農家

しか所有できず、管理も農家の責任において行うことになっているが、コンコードでは、町民の財産としての意識が高く、今のままの自然、環境を守りたいという意思が強く伝わりました。

下水道処理施設も見学させていただきましたが、施設は10年前に更新された比較的新しい施設で、当時の最新の技術を使われているようです。

コンコードの下水道の当初の設計は、七重官園の家畜房を設計したウィリアム・ホイラーがデザインしていることを聞いて、姉妹都市20年の交流以前の縁を感じました。



6代目のオールドノースブリッジ

最後に、姉妹都市提携20年の記念すべき年に、このような海外研修に参加するという貴重な機会をいただき、感謝しています。

今回、非常にきつい時差ぼけの中での交流とはなりましたが、海外の情報をマスメディアでしか取得できない日常の生活の中では決して知りえないことを知り、経験することができました。まさに、百聞は一見に如かずの思いです。

また、昨年お亡くなりになった、この交流のきっかけとなられたトム・カーティンさんの偉大さは、コンコードの皆さんのこの事業に対する姿勢や言葉の端々から感じ取れました。

コンコードのCCNNのメンバーも長年続けられており、高齢の方が多くなっているようで、次代に引き継ぐべく若い方も増やしているようです。

私も、両町の交流が更に深いものとなるよう、長く携わっていかねればと決意を新たに、今回の研修の報告とさせていただきます。